

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024年度

区分	学科目群	授業科目	基準単位数	必修選択	開講時期	担当責任者	実務経験のある教員	授業科目の概要
看護学の基礎となる科目Ⅱ	生体の基礎	微生物学	1	必修	1年前期	黒田 浩一(非)	黒田浩一(非常勤講師) 谷知子 前川和輝(特別講師) 貝田航(特別講師) 山本大(特別講師)	微生物の基本性状を理解し、微生物が生体に及ぼす影響について基礎的な知識を教授するとともに、病原体に対する防御方法について学習させる。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と生活	ヘルスプロモーション論	1	必修	1年後期	神原 咲子	神原 咲子	多種多様な健康危機に晒されている現代社会において、健康に関する様々な情報をいかに入手し、優先順位を付け、理解したうえで行動変容に結び付けるかが、専門職のみならず各個人にとっても極めて重要な課題となっている。本科目では、このような社会状況に対応して生き抜いていくにあたって、必須と考えられるヘルスリテラシーのスキルを身に付けることを目指す。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と生活	公衆衛生学	1	必修	2年前期	神谷 訓康	神谷 訓康	公衆衛生学は社会的存在である個人や人間集団が健康であるようにするための科学的技術や方法論を提供する総合的な応用科学である。人々が健康で快適な生活を送るためには、健康を害する問題が、何を原因として起こっているのかを認識し、それによって受ける人体への影響を除去する方法を考え、健康の保持増進を図るための方策を学ぶ。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と生活	疫学	1	選択・保健師必修	3年前期	神谷 訓康	神谷 訓康	疫学は人間集団を対象に、疾病の頻度と分布を明らかにするとともに、それらに影響を及ぼす要因を明らかにすることにより、疾病予防と健康増進に向けた有効な対策を立て、対策の評価を行う学問であり、予防医学や公衆衛生の基礎科学であることを理解する。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と生活	健康行動論	1	選択・保健師必修	4年前期	神谷 訓康	神谷 訓康	人間の思考や行動に関して、特に行動変容に焦点をあて、近年の神経科学の知見をおりませ、学際的な観点から学ぶ。その上で、健康のための行動変容を支援する方策、さらにセラピーなどに応用する方策を考察する。また、最近の保健・医療・福祉分野における行動科学に関するトピックを取り上げ考察する。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と生活	健康とビジネス	1	選択	4年後期	二木啓	相原由花(非常勤講師)	今日興隆をさめめる健康をめぐるビジネスの動向を、その問題点と可能性の双方において理解するとともに、国民の健康への関心と消費者としてのあり方について多角的な観点から学習する。また、看護専門職者として、健康・医療・スポーツ分野におけるビジネスのあり方とその可能性についても学習する。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と生活	生活と環境	1	選択	2年後期	神谷 訓康	神谷 訓康	人と環境の関わりについて、暮らしの中の環境問題を理解し解決方法を探ることを目的とする。大気環境、水環境、室内環境などの生活環境において、汚染要因の存在とその要因の人に対する健康危機管理について考える。講義は、学内での実験や見学を中心に演習形式で行う。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康の変調と医療	看護病態学Ⅱ	1	必修	2年前期	二木啓	谷知子	循環器系、血液・造血系ならびに脳・神経系において、これらの正常な機能が損なわれると、どのような症状があらわれ、どんな病気になるのか、また、その病因と症状の発現の機序はなにか、について講義する。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康の変調と医療	臨床医学Ⅰ(外科系、感覚器領域)	1	必修	2年後期	谷 知子	谷知子 神谷訓康 美馬裕之(特別講師) 伊丹淳(特別講師) 安達神奈(特別講師) 伊勢健太郎(特別講師) 松田聡(特別講師) 武田直也(特別講師) 田邊牧人(特別講師)	医療現場で実際に診療に携わっている外科・麻酔科・感覚器領域医師が臨床各分野の動向について診断、検査、治療の側面から教授し、現在の臨床医学についての学びを深め、看護に必要な知識を習得する。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康の変調と医療	臨床医学Ⅱ(精神・神経系、老化と老年病)	1	必修	2年後期	谷 知子	谷 知子	加齢による身体・心理、精神および社会的活動の変化を理解する。高齢者の特性をふまえた老化および様々な疾患についての知識を習得する。脳科学的側面から精神疾患を理解し、各疾患の違いや老化に伴う変化や疾患について知識を習得する。また、薬物治療のみならず社会的側面からの医療や資源についても学ぶ。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康の変調と医療	臨床医学Ⅲ(内科系、産婦人科領域)	1	必修	3年前期	谷 知子	谷知子 神谷訓康 辻和雄(特別講師) 北村ゆり(特別講師) 河邊哲也(特別講師) 上領博(特別講師) 中田庸介(特別講師) 片山和明(特別講師) 田端淑恵(特別講師)	医療現場で実際に診療に携わっている内科・放射線科・産婦人科領域医師が臨床各分野の動向について診断、検査、治療の側面から教授し、現在の臨床医学についての学びを深め、看護に必要な知識を習得する。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康の変調と医療	統合医療論	1	選択	3年前期	高山良子	高山良子 竹林直紀(非常勤講師) 相原由花(非常勤講師)	統合医療とは、全人的健康観に基づき、近代医療のみならず安全で有用性が期待できる伝統、相補、代替療法などあらゆる療法を利用し、自然治癒力に着目して、最も適切な治療法を選択するという患者中心の医療である。この統合医療の背景や考え方や実践の概要について、国際的な観点を含めオムニバス形式で学習する。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康の変調と医療	臨床遺伝学	2	選択	2年前期	二木啓	玉置知子(特別講師) 柗中智恵子(特別講師) 狭間敬憲(特別講師) 上道知之(特別講師)	現在の医学のあらゆる分野で重要性を増している、遺伝子を中心とした分子生物学の知見を基にして、遺伝カウンセリングや遺伝看護の実際を学ぶ。さらに、遺伝子治療センター見学等、臨地講義も行う。
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と社会	社会福祉学	1	必修	1年後期	岩本 華子	岩本 華子	わたしたちの生を支える制度である社会福祉の主要概念について、歴史的背景をふまえて考察し、今後、わたしたちがめざすべき社会制度のあり方について考える。あわせて、公的扶助、社会保険等の個別具体的な現行の諸制度とその問題点について概説する。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024年度

区分	学科目群	授業科目	基準単位数	必修選択	開講時期	担当責任者	実務経験のある教員	授業科目の概要	
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と社会	保健医療福祉行政論	2	選択・保健師必修	2年後期	山下正	山下正 岩本里織 岩本華子	保健医療福祉行政の理念としくみを学び、歴史の変遷と国と地方自治体の機能を理解したうえで、看護職が果たすべき役割を考察し、人々のQOLや健康の向上に資することをめざす。さらに人々の生活や健康を支える保健医療福祉行政のしくみがどのように構築されているか、法制度や行政システムについて理解する。	
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と社会	医療・看護制度論	1	必修	3年前期	林千冬	林千冬 花井理紗 早川ひと美(特別講師)	医療・看護のありようを定める法制度について、それらが現実にとどのような影響をもたらしているかに力点を置きつつ解説する。「保健師助産師看護師法」と医療従事者法。「医療法」改正の歴史と今日の課題。社会保険による医療保健制度、診療報酬制度のしくみと、国民医療費をめぐるこれまでの議論を理解し、医療政策について考える基礎を学ぶ。	
看護学の基礎となる科目Ⅱ	健康と社会	障害学	1	選択・保健師必修	2年後期	岩本華子	岩本華子	障害当事者の視点から我が国の障害者福祉行政および福祉社会のあり方を検討し、障害者を支え、かつ、共に生きる専門家に求められる種々の課題について考える。障害の社会モデルを基本的視点として、制度のあり方、ひととしてのあり方について考え、福祉行政に従事する際に必要な実践的態度を涵養する機会とする。	
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	看護学原論A	1	必修	1年前期	澁谷幸	澁谷幸	看護学の歴史と本質、看護の定義、看護学がとらえる人間、健康、環境の概念の基礎、看護職の役割と職務等、看護学への導入となる知識を学習する。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	看護学原論B	1	必修	1年後期	内山孝子	内山孝子	人々の健康とその取り組みへの支援、看護職を取り巻く制度・法律、問題解決的な方法論と看護ケア等、看護実践の基礎となる知識を学習する。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	看護倫理	1	必修	4年後期	澁谷幸	澁谷幸	倫理原則および看護実践上の倫理的概念を理解し、看護現場において生じる倫理的問題とそのアプローチ方法について理解を深め、倫理的問題に取り組む基本的姿勢を身に付けることをねらいとする。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	看護技術入門	1	必修	1年前期	内山孝子	内山孝子 新澤由佳 稲垣聡 岩井詠美 花井理紗 赤松由希絵	看護行為の基本となる看護技術の構造と内容を理解し、看護実践における技術の意義、およびあらゆる看護場面に共通する技術の基本を学ぶことをねらいとする。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	基礎看護技術演習Ⅰ	2	必修	1年後期	内山孝子	内山孝子 新澤由佳 稲垣聡 岩井詠美 花井理紗 赤松由希絵	環境の中で自ら回復していく能動的な主体である療養者に対し、生命力の消耗を最小限にするように、日常生活行動の基本的な援助技術の知識と方法を習得することをねらいとする。具体的には、生活を整えるための「活動、睡眠、清潔、食、排泄」への援助技術を学ぶ。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	基礎看護技術演習Ⅱ	1	必修	2年後期	新澤由佳	新澤由佳 内山孝子 稲垣聡 岩井詠美 花井理紗 赤松由希絵	診療過程における看護の役割、検査、治療を受ける患者への看護について理解し、検査や治療を受ける患者の看護において必要となる基礎的看護技術を学ぶ内容である。講義と演習で構成し、演習では、滅菌物の取り扱い、注射薬の準備、注射法、検体検査の方法、採血、吸引、膀胱留置カテーテルの挿入・管理について、モデル等を使用した学習を実施する。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	看護過程	1	必修	2年前期	内山孝子	内山孝子 看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員が臨床での看護実践を活かした講義を行なう)	健康上の問題や障害を持つ人の生活上のニーズや課題を明らかにし、その解決に向けた的確な援助を提供する方法論である看護過程を理解し、具体的な看護援助のプロセスを学習する。授業では、講義と並行して演習(グループワーク)を行い、理論を学習しながら事例を用いて具体的な展開方法を学ぶ。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	フィジカルアセスメント	1	必修	2年前期	新澤由佳	新澤由佳 内山孝子 稲垣聡 岩井詠美 花井理紗 赤松由希絵	人々の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントの意義と重要性を理解し、基本的な知識と診察手技を習得する。授業では、講義と演習を行い、バイタルサイン測定、胸部部の聴診・打診、関節可動域の観察などのフィジカルアセスメントに必要な基本的な知識や手技を学ぶ。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	地元創成看護学実習Ⅰa(地域)	1	必修	1年後期	看護学分野教員	看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員)	地元(地域)で生活する人々(個人・家族)と関わり、生活の実際や健康状態、および健康に関する価値観を知るとともに、生活環境と健康との関連を考える。
看護学科目	看護実践の基礎科目	基礎看護学	地元創成看護学実習Ⅰb(病院)	1	必修	1年後期	基礎看護学分野教員	基礎看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員)	地元の病院(神戸市民病院群)で行う実習です。この実習では、地元で生活する人々が、どのような目的で病院を利用して、どのように通院や受診、入院をしているのか、また、入院生活とはいかなるもので、どのように療養生活を送っているのかなどについて、院内各部門や病棟・病室の見学、入院患者さんとのコミュニケーションを通して学びます。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	ウイメンズヘルス看護学	女性のライフコース支援概論	1	必修	1年後期	高田昌代	高田昌代	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、女性への援助の基本について教授する。ウイメンズヘルスにおける倫理的課題について考察し、時代や社会構造、日常生活、地域性を視野において女性を看護する看護師の役割・機能と将来展望について考える基礎を提供する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	ウイメンズヘルス看護学	女性のライフコース支援論Ⅰ	1	必修	2年前期	池田智子	池田智子	周産期の母子(胎児を含む)と家族の健康に焦点を当て、対象の生理的、心理社会的変化と適応過程について理解を深める。加えて、周産期における母子・家族への看護ケア、およびセルフケア能力の向上、家族形成、親役割獲得への支援について考察する。 女性のライフコースにおける健康や女性生殖器疾患について理解を深め、女性中心のケアについて考察する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	ウイメンズヘルス看護学	女性のライフコース支援論Ⅱ	1	必修	2年後期	池田智子	池田智子 林由紀 田中美沙	周産期にある女性の心理的、身体的、社会的特性及び、新生児の特徴をふまえた看護援助のあり方、さらに家族拡大期における母性・父性役割形成への支援について教授する。さらにこれら知識をふまえ、周産期における母子とその家族が健康な生活が送れるようにするための看護方法について教授する。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024年度

区分	学科目群	授業科目	基準単位数	必修選択	開講時期	担当責任者	実務経験のある教員	授業科目の概要
看護学科目	利用者支援能力育成科目	ウィメンズヘルス看護学 女性と女性の健康	1	選択・保健師必修	3年前期	高田 昌代	高田昌代 井上理絵 池田智子 林由紀 田中美沙 子安恵子	ジェンダーの視点で、乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期における女性の健康問題を考える。これらの内容を通して、女性が健康に生きていくことの理解を深める。さらに、女性の健康を社会的な視点からも捉え、社会問題としても考える。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	ウィメンズヘルス看護学 ウィメンズヘルス看護学実習	2	必修	3年後期	高田 昌代	高田昌代 井上理絵 池田智子 林由紀 田中美沙 子安恵子	周産期における健康な母子および家族の身体的、精神的および社会的な変化や、健康ニーズ、適応過程を理解し、ウェルネスの視点から個別的な看護が実践できる基本的能力を修得する。さらに地域社会における母子に対する支援について現状を把握し、対象者が利用できるための支援能力を育成する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	小児看護学 小児健康生活支援論	1	必修	2年前期	半田浩美	半田浩美 二宮啓子 原朱美(非常勤講師)	小児看護の理念とともに、健康な子ども親、子どもの権利と倫理的課題、成長・発達原則、乳児期から思春期までの身体・心理・社会的成長発達過程とその評価方法について教授し、子どもが家族・社会の中で順調な成長・発達とともに健康に生活するために必要な支援とその方法について教授する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	小児看護学 小児療養生活支援論	1	必修	2年後期	半田 浩美	半田浩美 二宮啓子	健康障害および入院が子どもと家族に及ぼす影響、ならびに療養する上での様々な状況とその支援について教授する。また、小児期に特有の疾患、事故や外傷について、それぞれの病態生理・治療法・援助方法を中心に教授し、子どもの療養生活を支援するための能力を養う。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	小児看護学 小児看護援助論	1	必修	3年前期	二宮啓子	二宮啓子 半田浩美 清水千香 山本陽子	小児特有の療養生活支援技術について教授するとともに、学生がこれまでに習得してきた援助方法に関する基礎的知識を用いて健康障害をもつ子どもと家族の事例を展開する中で、彼らが直面する療養生活上の問題を解決するための支援方法を導き出す能力を養う。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	小児看護学 小児看護学実習	2	必修	3年後期	二宮啓子	二宮啓子 半田浩美 清水千香 山本陽子	小児の成長・発達および健康上の問題とそれに伴う生活の変化を、身体・心理・社会的な視点からとらえ、発達段階に応じた健康回復への看護を実践する能力を習得すると同時に、病院から家庭あるいは他施設への移行に伴って必要となる支援を提供する能力を養う。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	成人看護学 急性期看護論	1	必修	2年前期	森山 美香	森山美香	急性期の健康障害とこれへの一般的な治療に伴う患者や家族の痛み・苦痛を理解し、苦痛の緩和と自我の統合を促すための援助のあり方について教授するとともに、援助に必要な技術について習得する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	成人看護学 周手術期看護論	1	必修	2年後期	佐藤 隆平	佐藤隆平 川畑美貴 石関美津子 佐藤智夫	周手術期にある患者の身体・心理・社会的な特徴や、手術侵襲が患者に及ぼす影響を理解し、術前・術中・術後における患者のアセスメントの視点、援助方法について教授する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	成人看護学 クリティカルケア論	1	必修	3年前期	佐藤 隆平	佐藤隆平 川畑美貴 石関美津子 佐藤智夫	クリティカルケア環境の特殊性とそれが患者・家族に及ぼす影響を理解し、クリティカルケアを必要とする代表的な患者の看護のあり方について教授する。またクリティカルケア環境における倫理的側面について、グループワークで考えを深める。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	成人看護学 慢性看護論	1	必修	2年後期	池田清子	池田清子 畑中あかね 高山良子 後藤由紀子 樋口佳耶	この科目は慢性病とともに生きる病を理解するための基盤となる概念とセルフケアモデルについて学びます。支援技術については、代表的な療養法に焦点をあてた事例を通してセルフマネジメントを支援する基礎的能力を身につけます。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	成人看護学 がん看護論	1	必修	3年前期	小山 富美子(非)	小山富美子(非常勤講師) 畑中あかね 高山良子	がんの予防期、診断・治療期、再発期、終末期といった病気の経過を通して患者と家族に生じる身体的、心理的、社会的、霊的な問題を明らかにし、がん患者と家族のQuality of Life (QOL) を向上させていくための看護を理解し、看護実践のための基礎的な援助方法を学習する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	成人看護学 リハビリテーション看護論	1	必修	3年前期	畑中あかね	畑中あかね 池田清子 水川真理子 酒井英樹(特別講師)	リハビリテーションの考え方を基盤に、障害とともに生きる人の強さと可能性を見出し、生活を再構築する過程に寄り添う看護について学ぶ。また、チーム医療における看護職の役割について学ぶ。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	成人看護学 成人看護学実習	4	必修	3年前期	池田清子	池田清子 森山美香 佐藤隆平 畑中あかね 高山良子 後藤由紀子 樋口佳耶 川畑美貴 石関美津子 佐藤智夫	特定の健康課題をもち、病院において侵襲的な治療・検査処置を受け、療養生活を送る青年期から老年期までの幅広い年齢層の患者・家族を対象として、全人的な理解と患者中心の看護実践能力を習得する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	老年看護学 老年健康生活支援論	1	必修	2年前期	坪井桂子	坪井桂子 石橋信江 秋定真有 蒲谷苑子	老年期を生きる高齢者を老化過程への適応と発達の存在の視点から捉え、健康に老いることを支援する看護実践のための基礎的な知識と議論を提示し教授する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	老年看護学 老年療養生活支援論	1	必修	3年前期	石橋信江	石橋信江 坪井桂子 秋定真有 蒲谷苑子	老化と老年期特有の疾病、老年症候群により、生活機能の低下・障害をきたし日常生活に支援が必要となった高齢者とその家族に対する看護の役割と具体的な援助方法を教授する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	老年看護学 老年看護学実習	2	必修	3年後期	坪井桂子	坪井桂子 石橋信江 秋定真有 蒲谷苑子	療養が必要となった高齢者を総合的に理解し、その個人と家族に必要な支援を実践する能力を習得できるよう育成する。また、生活の場が移行する高齢者に必要な支援を他職種との連携・協働をとおして実践する能力を習得できるよう育成する。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024年度

区分	学科目群		授業科目	基準 単位数	必修選択	開講時期	担当責任者	実務経験のある教員	授業科目の概要
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	精神看護学	精神健康生活支援論	1	必修	2年前期	田中晴佳	田中晴佳 船越明子 関 口瑛里 角田響介	人間の心のしくみとその発達、人間関係ダイナミクスにおけるその働きや変容、危機的状況下での心の反応と援助について関連する諸理論を用いて教授する。また精神保健について、その歴史と法律から概要を学ぶ。 この授業の担当教員は、(精神保健看護) 等における看護専門職の経験を有しているため、より実践的な観点からその役割等を解説する教育として構成される科目である。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	精神看護学	精神療養生活支援論	1	必修	3年前期	船越明子	船越明子 田中晴佳 関 口瑛里 角田響介	心の健康の増進のため、怒り・抑うつ・不安などさまざまな健康レベルの問題をもつ対象に必要な援助を提供する方法について、実践的に教授する。 この授業の担当教員は、(精神保健看護) 等における看護専門職の経験を有しているため、より実践的な観点からその役割等を解説する教育として構成される科目である。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	精神看護学	精神看護学実習	2	必修	3年後期	船越明子	船越明子 田中晴佳 関 口瑛里 角田響介	精神に障害を持つ人とその家族を総合的に理解し、セルフケアの拡大に向け治療的援助関係を形成すると共に、長期的な見通しをもちながら、看護を実践する能力を習得する。また同時に、病院から在宅あるいは他施設への移行に伴って必要となる支援を考え、提供する能力を習得する。加えて、現在の精神保健医療福祉の今後の課題についても検討する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	地域・在宅看護学	在宅看護論Ⅰ	1	必修	2年後期	丸尾智実	丸尾智実 片倉直子 大 瓦直子 中川恵津子	在宅ケアが必要とされる社会的背景を踏まえ、在宅医療や在宅ケアにかかわる施策、制度、システム、施策の動向を知り、制度や実際の課題を理解しつつ、多様な社会資源や保険・支援制度について教授する。また、地域包括ケアシステムの概念および多様な社会資源を活用するためのケアマネジメント、多職種連携の必要性について教授する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	地域・在宅看護学	在宅看護論Ⅱ	1	必修	2年後期	丸尾智実	丸尾智実 片倉直子 大 瓦直子 中川恵津子	在宅看護の対象、活動の場、活動方法の特徴について理解し、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割と課題を教授する。また、病院・施設・在宅の移行期の状況と看護の視点の必要性、生活の場で行う看護の特徴、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割と訪問看護ステーションの運営管理の必要性とその基礎的内容を教授する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	地域・在宅看護学	在宅療養支援論Ⅰ	1	必修	3年前期	片倉直子	片倉直子 丸尾智実 大 瓦直子 中川恵津子	在宅看護場面における看護過程を応用的に展開できるように、在宅ケアの利用者と家族の希望する生活と健康面の課題とのすりあわせをしながら看護を提供する重要性を教授する。また、在宅療養を支える家族介護者と適切なコミュニケーションを実践を通して家庭訪問技術での配慮すべき点を教授する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	地域・在宅看護学	在宅療養支援論Ⅱ	1	必修	3年前期	片倉直子	片倉直子 丸尾智実 大 瓦直子 中川恵津子	在宅で起こりうる多様な状況や疾病に対するヘルス・アセスメントを理解し、在宅で効果的な援助を展開するための看護技術(在宅療養の場の特徴、アセスメントの視点・支援の実際・予測的対応・社会資源)が説明できるように教授する。また、医療依存度の高い在宅ケア(目的・観察とアセスメント、リスクマネジメント、家族支援、多職種連携、社会資源)における利用者や家族の自己決定の尊重と、在宅ケアならではの倫理的課題を教授する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学実習	2	必修	3年後期	片倉直子	片倉直子、岩本里織、丸 尾智実、山下正、山田暢 子、遠藤真澄、大瓦直 子、中川恵津子	地域で生活している様々な状況にある人々、療養者とその家族を総合的にとらえ、健康的な生活からその人らしい療養生活を支える看護活動を展開する実践能力を養う。また、地域包括ケアにおける訪問看護ステーション、地域包括支援センターの機能を理解するとともに、地域における他の関係機関や関係職種との連携および協働する能力を培う。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	公衆衛生看護学	地域看護学概論	1	必修・保健師必修	2年前期	岩本 里織	岩本 里織	地域で生活する人々の健康とQOLを高めることを主眼とする地域看護について、基盤となる概念及び歴史について理解する。また、地域で働く看護職である行政看護、学校看護、産業看護のそれぞれの役割・機能、活動の方法の概要について理解を深める。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	公衆衛生看護学	地域看護支援論	1	必修・保健師必修	2年前期	山下 正	山下 正	個人・家族・集団・地域社会を対象とした地域看護看護活動の実際と看護職の役割を学ぶ。地域を構成する人々の発達段階やそこから、地域住民の健康増進や予防のための地域看護活動の方法や内容を理解する。また地域住民や多職種多機関と協働して健康課題の解決をめざす地域看護活動の方法を理解する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1	選択・保健師必修	2年後期	岩本 里織	岩本 里織	公衆衛生看護活動に必要な基本的知識として、保健師活動の法的根拠、地域のとらえ方、保健師に必要な能力、住民の健康に影響する要因と保健師の役割、住民の生命を護る社会保障の考え方などについて学習する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学支援論	1	選択・保健師必修	2年後期	山下 正	山下 正	地域住民の個人・家族・集団・地域社会のそれぞれの生活の場において提供する公衆衛生看護活動を理解し、支援提供の場に応じた公衆衛生看護支援技術(保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、グループ支援・地域組織活動)を学習する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅰ	1	選択・保健師必修	3年前期	岩本 里織	岩本 里織	保健師が支援する児童虐待、社会的弱者、精神障害者、結核感染症患者、障害者等への個別・家族への支援方法について事例を用いて学習する。
看護学科目	利用者 支援能力 育成 科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	選択・保健師必修	4年後期	岩本 里織	岩本 里織 山下正 山田 暢子 遠藤真澄	公衆衛生看護において、保健師が行う地区管理や人材管理、健康危機管理などの管理的業務の概念や方法論について概説する。また地域におけるケアシステムの構築やケアマネジメントに関する知識と基本的技術について教授する。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024年度

区分	学科目群	授業科目	基準単位数	必修選択	開講時期	担当責任者	実務経験のある教員	授業科目の概要
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 公衆衛生看護技術論	2	選択・保健師必修	3年前期	山下正	山下正 岩本里織 山田暢子 遠藤真澄	地域で看護する際に必要な「保健指導」「家庭訪問」「健康相談」について、事例を通して理解するとともに、保健師に必要な活動展開技術を習得する。さらに演習やグループワークを通して、地域での生活を視野に入れたアセスメント、看護計画の立案、実施、評価のプロセスを学ぶ。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 公衆衛生看護疫学	2	選択・保健師必修	3年後期	山下正	山下正 片山修 岩本里織 神谷訓康	疫学の考え方を公衆衛生看護活動に取り入れ、公衆衛生看護活動の中で、集団に起きる健康課題と健康に影響する要因を明確にして、集団の健康課題の解決・改善、健康増進、エンパワメントの方法を保健師が示すための考え方や方法を学習します。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 健康学習論	1	選択・保健師必修	3年前期	山下正	山下正 岩本里織 山田暢子 遠藤真澄	地域における活動展開方法のひとつであり、個人の行動変容を促す健康教育・健康学習に関して必要な理論や方法論を学ぶとともに、個人や集団の対象の特性にあった健康教育を企画立案、実施できる能力を習得する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 産業保健活動論	1	選択・保健師必修	4年前期	森田 理江 (非)	森田理江(非常勤講師) 山田暢子	働く人々および職場を対象とした看護活動について、目的や理念、対象の特性について教授し、産業保健活動の重要性について学ぶ。また、事業所における個人、集団、組織への支援方法、および地域保健との連携について理解を深める。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 学校保健活動論	1	選択・保健師必修	3年前期	田中 祐子 (非)	田中祐子(非常勤講師) 遠藤真澄	学校における保健管理、養護教諭の業務や保健室運営の概要について基本的な知識を教授し、学校保健活動の重要性について学ぶ。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 地域看護診断論	2	選択・保健師必修	4年前期	岩本 里織	岩本里織 山下正 山田暢子 遠藤真澄	地域をさまざまな角度から情報収集・アセスメントし、地域特性やヘルスニーズ、地域の健康課題を明らかにするための基本的技術を習得する。具体的な方法論として、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを活用した地域看護診断を用い、地域看護活動過程における一連のプロセスを教授する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 地域政策形成論	1	選択・保健師必修	4年後期	岩本 里織	岩本里織 山下正	公衆衛生看護活動に必要な政策形成についての知識を習得するとともに、実習で経験した地域の健康課題について、自治体の上位システムにける政策の方向性や地域住民の政策決定への主体的関与を考慮しながら、政策形成をしていくプロセスを学修する。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 公衆衛生看護学実習 I	2	選択・保健師必修	3年後期	岩本 里織	岩本里織 山下正 山田暢子 遠藤真澄	保健師が従事する保健所、保健センター等の多様な場において、地域で暮らし住民を対象とした支援（継続した指導を含む）や活動展開の実際を通して、具体的な支援技術の習得や役割・機能について理解を深める。また地域住民や関係職種と協働して活動を行うための知識や技術を学び、地域全体と地域にいる人々の健康水準を高めていくための看護活動を主体的に実践できる能力を養う。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 公衆衛生看護学実習 II	2	選択・保健師必修	4年後期	岩本 里織	岩本里織 山下正 山田暢子 遠藤真澄	実習 I と同様の保健所・保健センターでの実習を行い、継続的に地域を担当するとともに、事例への継続的な訪問を行う。地域看護診断を実地的に体験することにより、地域におけるヘルスニーズの把握、健康課題の抽出、活動計画の立案、実践および評価の一連の地域看護過程を展開できる能力を養う。また、保健師が行う管理的業務、コーディネート、システムづくり、健康危機管理などの具体的活動についての理解を深める。
看護学科目	利用者支援能力育成科目	公衆衛生看護学 産業保健学実習	1	選択・保健師必修	4年後期	岩本 里織	岩本里織 山下正 山田暢子 遠藤真澄	働く人々の生活や健康の状況と、事業場における労働衛生管理の実際を知り、看護職として働く人々を支援する能力を養う。
看護学科目	組織開発能力育成科目	看護管理学 看護管理学 I	1	必修	2年後期	林千冬	林千冬 花井理紗	保健医療の組織において、看護職者として自律的に活動していくために必要な、看護管理の基礎理論・基礎概念を教授する。加えて、看護の質保障ならびに質改善の概念を、医療安全と労働安全衛生の具体的な取り組みと併せて教授する。
看護学科目	組織開発能力育成科目	看護管理学 看護管理学 II	1	必修	4年後期	林千冬	林千冬 花井理紗	病院組織における看護管理について、総合実習・看護管理学実習の成果を題材にした討議・考察をとおしてより実践に即した理解を図る。さらに看護職者を取りまく周辺の関連団体・組織についても解説し、看護管理や看護政策、キャリア開発などとの関係について考えを深めさせる。
看護学科目	組織開発能力育成科目	看護管理学 医療・看護政策論	1	選択	4年前期	林千冬	林千冬 花井理紗	今日の医療・看護政策の課題について概観し、医療・看護の政策決定過程を、関連法制度の制定/改正過程の具体例を通して理解する。加えて、医療・看護の政策から政治に関わる主たるアクター（個人・団体）のありようと、どのように政策決定に関与しているかを理解する。
看護学科目	組織開発能力育成科目	看護教育学 看護生涯学習論	1	選択	4年後期	澁谷 幸	澁谷 幸	本科目では、生涯学習とは何か、看護職者の生涯学習は何かにあるべきか、看護生涯学習は実際どのように行われているのかについて学びます。これらの知識を踏まえ、受講生が看護職者としての生涯学習について考える機会を提供します。
看護学科目	看護統合科目	地元創成看護学実習 II	2	必修	2年前期	看護学分野教員	看護学分野教員(担当教員は病院・訪問看護ステーション・高齢者施設・保健所・保健センター等での実務経験を有する。)	さまざまな発達レベル・健康レベルにある地元（地域）で生活する人々（個人、家族）と関わり、地域の生活や保健医療福祉に関わる多様な人的・物的資源等を理解し、それらと地域の人々との健康との関係性について考える。また、看護の視点から、地域の人々がさらに健康を保持・増進について考える。
看護学科目	看護統合科目	地元創成看護学実習 III	2	必修	4年前期	看護学分野教員	看護学分野教員(担当教員は病院・訪問看護ステーション・高齢者施設・保健所・保健センター等での実務経験を有する。)	さまざまな発達レベル・健康レベルにある地元の人々の健康の維持・増進に関連する健康課題について、地元の地域包括ケアシステムを見据えて明らかにし、地元の人々と共に健康課題を解決するための支援の方向性を考え実施する。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024年度

区分	学科目群	授業科目	基準単位数	必修選択	開講時期	担当責任者	実務経験のある教員	授業科目の概要
看護学科目	看護統合科目	総合実習	3	必修	4年通年	看護学分野教員	看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員)	既習の看護学実習をとおして学んだ内容をふまえ、実際の看護チームのなかでケアを実践するとともに、看護管理者のマネジメント活動を理解することとおして、専門職業人としての責任の自覚と倫理観に基づく基本的な看護実践能力を習得する。
看護学科目	看護統合科目	地元創成看護論	1	必修	1年前期	岩本 里織	岩本里織	人々が生活する場である地域/地元について理解し、地域におけるコミュニティの人々の活動の実際や、多様な人的・物的資源の概要について学ぶ。また、地域を自分の目で見、地域に住む人々の生活と健康について知り、健康と地域環境との関連について考える機会とする。本学周辺の地域を「地元」として捉え、神戸市の特徴について知る。
看護学科目	看護統合科目	家族看護論	1	必修	3年前期	高山 良子	高山 良子	家族を看護の対象としてとらえ、家族自らが健康問題を解決し、より高次の健康的な家族生活を実現できるように、予防的・支持的・治療的な看護介入について探求する。
看護学科目	看護統合科目	看護ナラティブ演習	1	必修	4年後期	池田清子	池田清子 看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員)	これまでの講義、演習、看護学実習を振り返り、自身の看護観を深め、語るができる。
看護学科目	看護統合科目	国際看護論	1	必修	2年後期	神原 咲子	神原 咲子	地球温暖化、グローバル化など地球規模での変化は世界の人々の健康に直接的な影響を与えている。その影響は、世界で一番多い保健医療職であり、どの国・地域でも第一線で人々の健康を護り支えている看護職にもおよんでいる。その中で看護師たちは実際にどのような活動をおこなっているのかを、それを支えるICNの活動とともに学び、広い視野で看護をとらえる能力を身につける。
看護学科目	看護統合科目	海外看護学研修	1	選択	全学年	神原 咲子	神原 咲子	海外の看護現場の現状や医療・福祉制度を学び、異文化について理解を深め、広い視野から看護を考える力を養う。ホームステイをしながら、受け入れ先大学等で短期の研修(看護学講義・語学などの授業プログラムや医療施設見学などの実地見学プログラム、等)を受けることにより、学生のコミュニケーション能力を高め、国際社会で活躍できる能力を培う。
看護学科目	看護統合科目	災害看護論	1	必修	3年前期	神原 咲子	神原 咲子 佐藤隆平 花井理紗	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から発災直後および中・長期に渡り必要となる看護活動について学び、災害看護活動に参加できる基礎的能力を習得する。
看護学科目	看護統合科目	災害看護技術演習	1	必修	4年後期	神原 咲子	神原 咲子 佐藤隆平 看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員)	災害看護論で学んだ知識をもとに、災害急性期から亜急性期、パンデミックに関する各種のシミュレーション演習を通して、災害における看護実践力を養う。
看護学科目	看護統合科目	感染看護論	1	必修	3年前期	佐藤 隆平	佐藤隆平 川畑美貴 石関美津子 佐藤智夫	微生物対策を柱とする管理的活動の基礎として、微生物の生体への影響、外科的無菌法・消毒法・隔離法、院内感染予防などについて教授する。
看護学科目	看護統合科目	生と死のケア論	1	必修	4年後期	坪井桂子	坪井桂子 船越明子 片倉直子 森山美香 池田清子 半田浩美 高山諒子	人の一生は「誕生から死まで」のライフサイクルをもっている。人生の終末の段階は一般的には老年期と理解されているが、発達段階のすべての段階で「死」を迎える可能性がある。あらゆる発達段階やあらゆる療養の場(病院、施設、在宅など)における「死」に向けての援助、言い換えるならば終末期におけるよりよい「生」をどのように支えるかについて、また、生と死に向き合う看護者の体験について、実習の学びを基礎として、end of life careの実践能力の基礎を開発する。科目の趣旨に則り、小児看護学、慢性看護学、急性期看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護学のオムニバスを担当する。
看護学科目	看護統合科目	看護学ゼミナール	1	選択	4年通年	看護学分野教員	看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員)	講義・演習といった形式にとらわれず、それぞれの専門分野について探求する。
看護学科目	看護統合科目	多職種連携 I	1	選択	1年後期	片倉直子	片倉直子 谷知子 丸尾智実 大瓦直子 中川恵津子	卒業時に地域の保健医療福祉領域におけるニーズを的確に把握し、多職種連携協働による対象者・家族・コミュニティ中心のケアに寄与できるように、各職種の業務や役割、多職種連携の方法について理解し、実践していく基盤を養うことを目的とする。多職種連携Iのねらい：1. 保健医療福祉分野にかかわる職種(看護職、薬剤師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、管理栄養士、公認心理士など)の業務を概説できる。2. 国および地域における保健医療福祉分野のニーズを概説できる。3. 多職種連携を行う上で、看護専門職として必要な学びを述べることができる。4. 他者と適切にコミュニケーションし、より良い人間関係を築くことができる。5. グループ活動で自らの考えを積極的に述べることができる。6. 価値観の多様性を理解し、他者の意見を尊重することができる。
看護学科目	看護統合科目	多職種連携 II	1	選択	2年後期	片倉直子	片倉直子 谷知子 丸尾智実 大瓦直子 中川恵津子	卒業時に地域の保健医療福祉領域におけるニーズを的確に把握し、多職種連携協働による対象者・家族・コミュニティ中心のケアに寄与できるように、各職種の業務や役割、多職種連携の方法について理解し、実践していく基盤を養うことを目的とする。多職種連携IIのねらいは、下記のとおりである。1. 対象者・家族・コミュニティの視点を踏まえた専門職の連携・協働の必要性を概説できる。2. 自職種の考え方・行動・関心を概説できる。3. 他職種の考え方・行動・関心を概説できる。4. 複数の職種における関係の構築や維持・成長に必要な学びを述べることができる。5. 他職種学生と適切にコミュニケーションし、対象者・家族・コミュニティ中心のケア体制を意識したチーム形成ができる。6. 職種の違いによる価値観の多様性を理解し、その意見を尊重することができる。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024年度

区分	学科目群	授業科目	基準 単位数	必修選択	開講時期	担当責任者	実務経験のある教員	授業科目の概要
総合科目		看護研究方法論Ⅰ	1	必修	3年前期	谷知子	谷知子 神原咲子	看護学研究に関する基礎的理解を得ることを目的として、研究のプロセスの前半の山場である研究目的の明確化とそのため不可欠な要素である文献検索・検討について学ぶ。
総合科目		看護研究方法論Ⅱ	1	必修	4年前期	佐藤隆平	佐藤隆平 高山良子 秋定真有 山田暢子	看護学研究に関する基礎的理解を得ることを目的として、研究プロセスを学ぶ。研究目的を達成するために重要な方法論に焦点を当てるとともに、研究対象者の権利擁護のための倫理的配慮をとりあげる。
総合科目		研究演習	3	必修	4年通年	全教員	看護学分野教員(看護師の臨床実務経験のある教員)	既習の授業や実習等を通じて、学生それぞれが関心をもった研究テーマに取り組む。研究テーマに応じた学問分野の指導教員よりゼミ形式あるいは個別での指導を受け、一連の研究プロセスを経験し研究成果をまとめる。
総合科目		ボランティア活動	1	選択	全学年	池田清子	池田清子 畑中あかね 後藤由紀子	ボランティア活動を通して、「他者を知る」「社会を知る」「自分を知る」ことをめざす。ボランティアの経験は看護職としての自己の基盤作りにつながる。